国民の声聞かぬ政権許さぬ

7/16 毎旗

戦争法案採決強行

市民が終日抗議行動

「絶対に廃案にする」「安倍政権の暴挙を許さない」―。過半数の国民が反対する中、政府与党が衆院安保法制特別委員会で戦争法案を強行採決した15日、国会に抗議で駆けつけた人たちや日本共産党の緊急街頭宣伝（東京・新宿駅前）に耳を傾けた通行人らは、怒りの声を上げました。

国会前 この子たちを守る

「戦争法案の強行採決を許さない」と声をあげる人たち＝15日、国会正門前

国会正門前には午前中から、「戦争法案廃案」を訴える多くの市民が集まりました。

千葉県柏市の看護師・星野裕美さん（43）は「黙っても立ってもいられずに」夫と2人の子どもと参加。「安倍さんは憲法9条を曲げて戦争しようとしている。北朝鮮のミサイルがこちらを向いているというが、それを押さえようとしているのが安倍さんではないか」と話します。

子どもたちを見て、「おとながこれだけ反対して、この子たちを守ろうとしている姿を見せたい。次の世代を担う子どもたちに声を上げてもいいんだということを示したい」と語りました。

車輪に「NO WAR」「PEACE NOT WAR」と貼り付けた自転車で国会正門前に駆けつけた富本邑江（ともえ）さん（42）＝東京都豊島区＝。「許せないの一言です。武力で物事を解決しようというのは成熟した民主国家ではない。民主主義は多数決ではありません」と憤りました。

夫の学さんも「民主主義をバカにしている。国民の声も聞かず、こういう重要なことを決めるなんて職務放棄でお粗末だ」と批判しました。

東京・新宿 強引なやり方心配

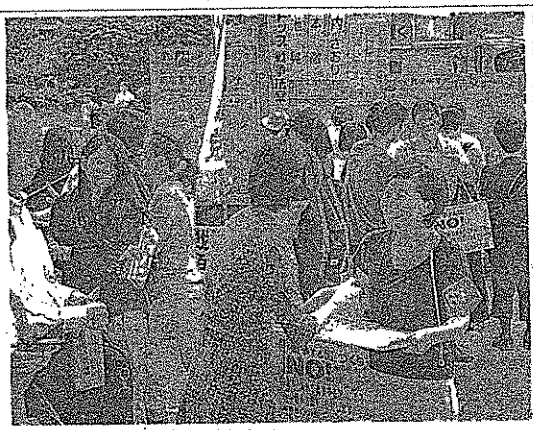
東京・新宿駅西口前で「しんぶん赤旗」一号配だから。

千葉県流山市・飲食店勤務＝は「世論でも反対が多いのに、強行採決して〝マジか？〟って感じ。何かしらのかたちで反対の意思を示したい。安倍政権の強引なやり方が他の問題でも続くのではと心外を受け取った藤井由奈（ゆうな）さん（25）＝

大学生の本田隆裕さん（21）は「きちんと議論もせず、国民の納得のないまま押し通すことは、民主主義の根幹をゆるがすものだ」と話し、国会審議と強行なやり方が問題だと強調します。

「こんな暴挙は絶対に認めない」と話すのは、東京都板橋区で年金生活の神田安衛（やすえ）さん（83）。「安倍（首相）の答弁は法案の核心についてあいまいにしたまま。強行採決など話にならない。何が何でも廃案にしていかねば」

プラカード「誰も殺すな」を持参した井上宏男さん（72）＝岡武蔵村山市・会社員＝は「この間、何度も国会前に足を運んでいます。戦争法案を廃案にしたい」と力を込めました。


日本共産党の緊急街頭宣伝で署名に応じる人たち＝15日、東京・新宿駅西口

夕方の国会前 反対の意思示す

「自由と民主主義のための学生緊急行動（SEALDs）」が主催した夕方の国会前抗議行動には、インターネットのSNSなどで行動を知った多くの若者が詰めかけました。

埼玉県川口市の山崎優子さん（30）＝フリーター＝は、4人でロックバンドの活動をし、福島県でも毎月ライブをしています。

「原発事故後からこういう場に来るようになりました。今日の強行採決はネットでリアルタイムで見ていました。本当に強行突破するんだと。安倍首相にはポリシーを感じません」と話します。

都内の男子大学生（20）は、インターネットのツイッターで行動を知り、参加。2013年の秘密保護法の強行の時以来、国会前に来るようになったといいます。「少しでも頭数になれればと思って、反対の意思表示にきました。安倍首相のやっていることは立憲主義に反しています。周りの友人も、安倍首相はおかしいと話しています」

シンポジウムであいさつする村越日弁連会長＝15日、東京都千代田区

力あわせ立憲主義守る

日本弁護士連合会がシンポ

日本弁護士連合会（村越進会長）は15日夜、東京都内でシンポジウム「安全保障法制の問題点を考える」を開きました。約300人が参加、自民、公明両党による衆院特別委員会での強行採決に怒りの声があがりました。

村越会長は「何時間、審議しても憲法違反であり、合意になるはずがない。取り下げるか廃案にしなければならないものだ。数の論理で押しきることは暴挙としかいいようがない」と強行採決を批判。「立憲主義を守り、憲法違反の法律に反対で力を合わせる時だ」とのべ、奮闘する決意を表明しました。

シンポでは元陸上自衛隊員の井筒高雄さんと東京新聞論説委員の半田滋さんが講演した後、各界からのリレートークがおこなわれました。

日本ペンクラブ会長で作家の浅田次郎さんや俳優の故宮崎文夫さんの妻で、「辺野古基金」共同代表の宮崎文子さん、日本カトリック司教協議会会長の岡田武夫さん、全国保険医団体連合会会長の住江憲勇さん、JAL不当解雇撤回裁判団パイロット団長の山口宏弥さんが発言、強行採決に抗議しました。